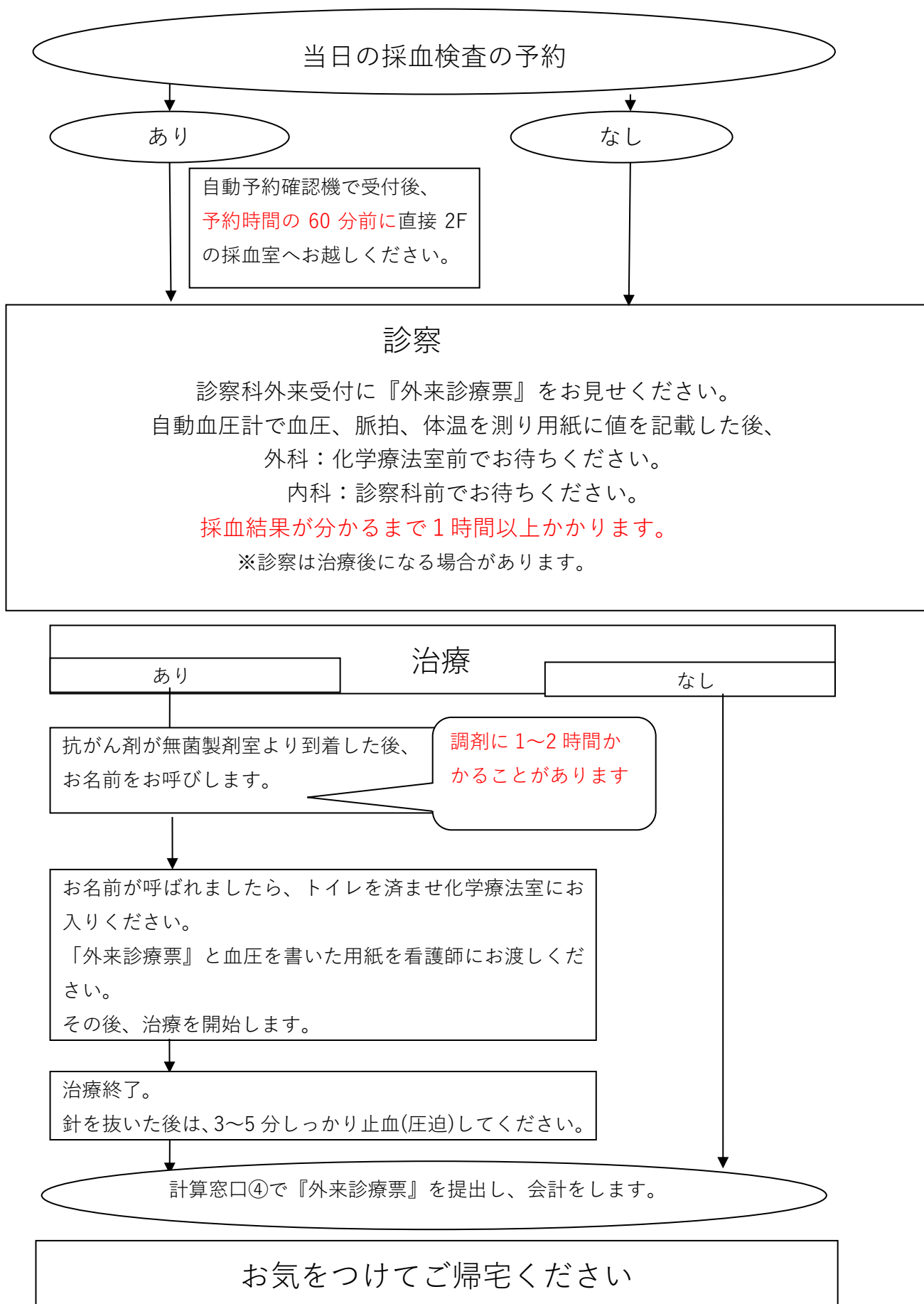


外来化学療法を受けられる患者様へ



東京共済病院 化学療法室



<化学療法室での過ごし方>

当院の外来化学療法室では、より快適で安全な環境の中で患者様に点滴治療を受けていただけるよう準備しています。

実際に治療を受けていただくベッドには、電動ベッド(頭側と足側が動くタイプ)、普通のベッド(頭側が動くタイプ)、リクライニングチェアの3種類があります。

空き状況によりお使いいただけるベッドが変わりますので、お身体が辛いなどの理由でベッドの種類にご希望がある場合はご相談ください。

点滴中は、本を読んだりイヤホンで音楽を聴いたりなどリラックスしてお過ごしください。(イヤホンをご使用される場合はご自身でご持参ください。)

点滴が昼食時間に重なる場合は、ベッド、リクライニングチェアでお食事をし、眠たければゆっくり寝ていただいても構いません。

注射薬の調剤は薬剤部の無菌製剤室にて行っておりますので、衛生面でも安全に安心して治療をお受けいただけます。

医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの他職種でサポートさせていただきます。

脱毛によるウィッグのご利用や社会制度についてなどのお悩みがあれば、いつでもご相談ください。



< 点滴中の注意事項 >

抗がん剤の点滴では、お薬を血管から漏らさないことが大切です。
また、もし漏れてしまった場合は素早い処置が必要となります。
看護師は定期的に点滴の漏れがないか、
きちんと点滴できているかなどのチェックを行っています。
しかし、ほんの少しの違和感などを一番に感じることは患者様です。

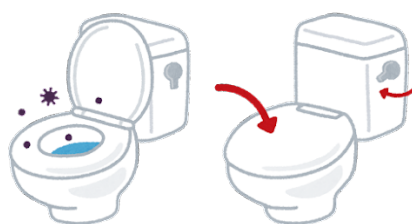
☆次のような時は我慢せずに、すぐに看護師にお知らせください。

点滴の針の周りが痛む

点滴の針の入っている部分が腫れてきた、赤くなってきた

点滴の落ちが悪い

- ・点滴中は管を強く引っ張ったり、引っ掛けたりしないようにしましょう。
- ・針が入っている部分を長い時間曲げたり、圧迫しないようにしましょう。
- ・点滴が空になっても、体に空気が入ることはありません。
- ・点滴スタンドを押してトイレへ行くことは可能ですが、点滴開始前にトイレは済ませておく方が安心です。
治療中トイレへ行かれる際は、蓋をしてトイレを2回流しましょう。
- ・点滴中に気分が悪くなったときはすぐに看護師にお知らせください。



**フタを閉めてから
流してください**



<副作用について>

抗がん剤は細胞に対して攻撃を行ないますので、正常な細胞へもダメージを与えてしまいます。それにより現れる様々な症状を副作用といいます。

副作用は使用するお薬の内容や量によって様々であり、個人差もあります。中には辛い症状もありますが、あらかじめ副作用を軽くするための点滴を用いたり、現れてしまった症状に対してお薬を処方したりと、できるだけ苦痛を少なく出来るように対応しています。

体調の変化や気になることがあれば、小さなことでも医師や看護師にお知らせください。

帰宅後に発生した症状については、お電話で相談できます。特に点滴をしていた付近の皮膚が赤く腫れてきた場合は早めにご相談ください。

☆パクリタキセル、アブラキサン、ドセタキセル治療をされる方は手足のしびれ予防のために治療中に手足を冷やします。**綿の靴下、綿の手袋**をご持参ください。

※パクリタキセル点滴治療をお受けになる方は、アルコール含有のお薬ですので、当日は車や自転車の運転はお控えください。来院時も公共の交通機関のご利用をお願いします。



< 抗がん剤治療中の家庭での注意事項 >

お身体を巡った抗がん剤は、
尿として抗がん剤投与当日から4～8時間ほどで外に排出されます。

日常生活で気を付けていただきたいこと

< 食事について >

同じ食器を使うことは問題ありませんが、
口移しや同じ箸やスプーンでお子さんに食べさせることは控えましょう。
(使用した箸やスプーンを共有しないようにしましょう。)

< 洗濯について >

洗濯物を一緒に洗うことは問題ありません。

< トイレ使用について >

妊婦や小さいお子さんがいらっしゃる場合は、
トイレを使用後2回流していただくことをお勧めします。

< 緊急連絡先 >

03-3712-3151 (代表番号)

「外科外来、化学療法室へ」と
お伝えいただくとつながります。
平日 8:30～17:15 (月～金曜日)
上記以外は
同番号で救急外来につながります。

